

高等学校

平成 15 年 度

教育研究員研究報告書

外 国 語

東京都教職員研修センター

平成15年度教育研究員（外国語部会）名簿

A グループ

所 属 校	氏 名	備 考
都立荻窪高等学校	関野 俊樹	◎
都立小岩高等学校	島崎 千夏	
都立向島商業高等学校	柴田 尚美	
都立南多摩高等学校	堀内 明	
都立田無工業高等学校	和田 兼二郎	

B グループ

所 属 校	氏 名	備 考
都立市ヶ谷商業高等学校	岡田 かおる	
都立大山高等学校	岡本 謙一	
都立小平南高等学校	西岡 裕美	
都立小金井北高等学校	小林 陽子	
都立東村山西高等学校	榎本 正	○

◎ 世話人 ○ 副世話人

担当： 東京都教職員研修センター統括指導主事 原田 承彦

目 次

共通研究主題 コミュニケーション活動の指導と評価

1	共通研究主題設定の理由	2
2	研究のねらい	2
3	研究の方法	2

Aグループ 研究主題 コミュニケーション活動につながるリーディング指導と評価 ～生徒の興味・関心を引く教材の開発を通して～

1	主題設定の理由と研究のねらい	3
2	研究の仮説	3
3	研究の方法	4
(1)	教材作成	4
(2)	授業展開	4
(3)	検証方法	4
(4)	評価方法	4
4	実践事例	6
5	アンケートの結果と考察	11
6	研究の成果と課題	12
7	参考文献	13

Bグループ 研究主題 コミュニケーション活動における生徒の興味・関心を喚起する 音声指導と評価

1	主題設定の理由と研究のねらい	14
2	研究の仮説と研究の方法	14
3	実践事例	15
4	アンケートの結果と考察	22
5	研究の成果と課題	24
6	参考文献	24

共通研究主題 コミュニケーション活動の指導と評価

1 共通研究主題設定の理由

高等学校学習指導要領外国語科では、国際社会に生きる日本人として世界の人々と協調し、国際交流などを積極的に行っていけるような資質・能力を養う観点から、外国語による実践的コミュニケーション能力を育成することを目標としている。

また、目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）の導入に伴い、4つの観点に基づく新たな評価方法を導入していくことも高等学校の緊急な課題となっている。

さらに、目標に準拠した評価を行うばかりでなく、その評価を生かしてその後の適切な指導を行う、指導と評価の一体化が求められている。

以上の理由から、「コミュニケーション活動の指導と評価」を共通研究主題として設定した。

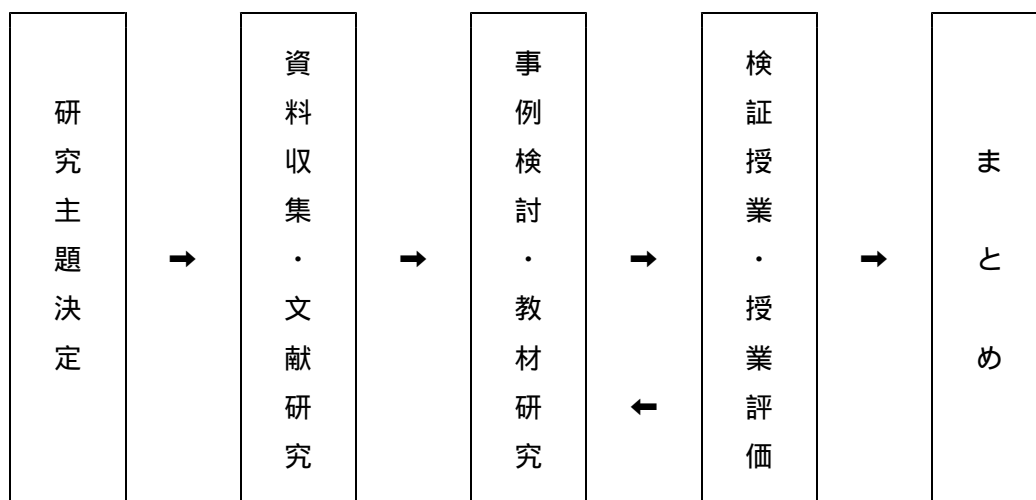
2 研究のねらい

本研究では、コミュニケーション活動の指導及び評価をする際に、実際の授業で実行可能であることが前提であると考えた。A、Bグループとも、教員が毎日の英語指導の中で事前準備及び事後処理が無理なく実行できるコミュニケーション重視の具体的な指導方法と、それに用いる有効な教材を提案することを目指した。

また、積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるためには、「英語を使うことは楽しい」と生徒に思わせることが大切となる。そこで、生徒の興味・関心を引くような指導方法や教材を提案することを目指した。

さらに、評価については1単位時間の授業に多くの観点を盛り込むのではなく、例えば特定の1観面で、あるいはそれに「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」を加えた2観点で評価することにした。

3 研究の方法



Aグループ 研究主題 コミュニケーション活動につながるリーディング指導と評価

～生徒の興味・関心を引く教材の開発を通して～

1 主題設定の理由と研究のねらい

(1) 主題設定の理由

「実践的コミュニケーション」という言葉から、読み書きよりも相手の表現する内容を聞き取って、自分の意見を述べるというような、口頭でのコミュニケーションのみが注目されている現状がある。もちろん、口頭でのコミュニケーションは大切ではある。しかし実際の日常生活では、インターネットで英語のホームページを見て情報を得たり、商品を購入したり、英語で書かれている説明書を読んだりする機会が多い。このことから、英語を読む力を伸ばすことも重要である。したがってAグループは、「読む」ことを中心として他の技能を使ったコミュニケーション活動に発展させる授業展開を考えた。

読む活動では、英文の概要をまとめ、それについての意見を他者に伝えることなどを通じて、積極的にコミュニケーションを図る態度を育てることが重要である。しかし、文法訳読中心の授業では読んだ英文についての発信的な活動が行われていないことが多い。また、英語に対する苦手意識をもつ生徒にとっては英文を読んでそれを理解するのも困難であるという理由で、コミュニケーションを図ろうとする段階まで至らないという現実もある。

そこでAグループでは、読む活動において生徒の英文読解力を伸ばすために、生徒の興味・関心を引く教材を開発した。そのことで英文を読むことへの抵抗感を少しでも減らし、生徒が読むことが楽しいと感じられるように工夫した。以上の点を踏まえて、他の技能も使った積極的なコミュニケーション活動に発展できるような授業展開を考案し、指導実践した。

(2) 研究のねらい

生徒の英語への苦手意識をなくし、リーディング活動への興味を喚起し、さらに他の活動へも興味をもたせる方法を提案する。

テキストを正しく読み取る能力を伸長する方法を提案する。

生徒自身の考えや意見を表現する能力を高める方法を提案する。

テキストを正しく読み取り、それに関連した自分自身の意見を表現する能力を評価する方法を探る。

2 研究の仮説

- ・生徒は、興味の引かれる教材を読み、その内容を理解できれば、英文を読むことを楽しく感じ、読むことへの動機が高まる。
- ・その結果、他の技能（ライティング・スピーキング・リスニング）を用いて、コミュニケーション活動に意欲的に参加することにつながる。

3 研究の方法

(1) 教材作成

仮説に基づき、以下の3点を考慮し、研究員が独自に教材を作成した。

生徒の興味・関心を引きやすいもの及び生徒に関心をもってほしいものを扱う。

単語数は原則として100語から200語までの間とする。

文法・語いについては可能な限り易しいものを使用する。

また、生徒の実態に応じて、必要であれば英文に脚注や視覚的なヒントをつけた。さらに、1つの英文教材について「発展」と「基礎」の2つの形を作り、各学校でどちらか一方又は両方を使用した(7、10ページ参照)。

(2) 授業展開

独自教材を使用した授業を9月から11月にかけて10回程度、1回につき10分～20分で実施した。1回の授業で1つの教材を扱うことを原則とした。実践する授業の科目は各研究員の裁量とした。

(3) 検証方法(事前・事後アンケート - 11ページ参照)

研究を始めるに当たって、研究開始時点での生徒の実態を把握することを目的に、9月にアンケートを実施した。

さらに、独自教材を使用した授業をすべて終了した後、11月に再度アンケートを実施した。これは、独自教材を使用した授業を行った結果、生徒の意識にどのような変化が現れたかをみるためである。

(4) 評価方法

国立教育政策研究所の「評価規準、評価方法等の研究開発(中間整理)」平成15年9月10日付では、高等学校学習指導要領外国語に基づく評価の観点及び趣旨として、以下の4点が例示されている。

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	外国語を用いて、情報や考えなど伝えたいことを話したり、書いたりする。	外国語を聞いたり、読んだりして、情報や話し手や書き手の意向など相手が伝えようとすることを理解する。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解する。

そこで、本研究では「読むこと」の評価規準を4観点に基づき、以下のように作成した。

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
「読むこと」の言語活動に積極的、主体的に参加し、様々な工夫をすることで、コミュニケーションを続けようとしている。	日常的な話題についての英語を読んで、自分の意見や感想を伝えることができる。	日常的な話題についての英語を読んで、情報や考えなど書き手の伝えようとするところを正確に理解することができる。	学習した英文の語いや、その英文の背景にある文化について理解している。

さらに、仮説に基づき、「理解の能力」と「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」の2観点を中心に評価規準を絞ることにした。

そして、具体的な評価規準は以下のように定め、1単位時間で評価を行う場合はそのうちの1観点か、多くとも2観点までとした。

- ・まとまりのある文章を読んで、必要な情報を得たり、概要や要点をまとめたりすることができる。
- ・まとまりのある文章を読んで、書き手の意向などを理解し、それについての自分の考えなどをまとめたり、伝えたりすることができる。

以上の規準に基づき、教材に使用する英文や設問を作成し、学習の達成度を測る基準を以下のように設定した。

- ・1回の設問につき正答が半分以上であったもの B（おおむね満足できる状況）
- ・1回の設問につき正答が半分未満であったもの C（努力を要する状況）

最終の評価では、累積された各授業での評価の8割以上がBであった場合は学習の成果が十分満足できると判断し、A（十分満足できる状況）とした。

また、数回実施したのち、C評価が多数を占めた生徒に対しては、次回以降がB評価になるように助言を与えたり個別指導を行い、指導と評価の一体化を図った。

評価の具体例

	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回	最終評価
生徒1	B	B	B	C	B	B	B	B	B	C	A
生徒2	B	C	C	B	B	C	B	B	B	B	B
生徒3	C	C	B	C	B	C	C	B	B	B	B
生徒4	C	C	C	B	C	B	C	C	B	B	C

4 実践事例

(1) A 高等学校の実践事例

学校の現状

生徒の9割以上が四年制大学進学を目指しているため、英語の学習が必要だと感じる生徒が多い。授業では難易度の高い検定教科書を使用しており、英語が嫌い又は苦手と感じる生徒の数は学年進行につれて多くなっている傾向がある。しかし、一方でアンケート結果では、書物を読んで新しいことを知ることは楽しいと感じる生徒は9割以上いる。

実践指導例

実施日時 平成15年10月29日(水) 第4校時

実施対象 第3学年5組 ライティング

使用教材 独自作成教材 「世界最高齢はだれか」

評価規準

- ・世界最高齢についての情報が書かれた英文の内容の概要をつかむことができる。
- ・その英文の内容について、自分の意見を英語で書いて表現することができる。

指導手順(1単位時間のうちの10分間)

- ・前時の使用教材を返却。
- ・本時の使用教材を配布。
時間は3分以内を目標にし、内容をつかみ、それについて自分の考えを書くように指示。
- ・合図で開始し、計時。
- ・3分の合図とともに、終了していない生徒のために更に1分計時。
- ・英文の解説と問題の答え合わせ。
- ・教材の回収。
- ・授業終了後に採点し、次回の授業で返却。

実施結果

37人中、B(おおむね満足できる状況)が30人、C(努力を要する状況)が7人であった。

最終評価

このような実践を2クラス(81人)で各8回行い、以下のような最終評価となった。

A (Bが7回以上)	B (Bが4～6回)	C (Bが3回以下)
54人(67%)	20人(25%)	7人(8%)

< A校の使用教材 >

Health officials in Chechnya say the person is 124 years old. Her name is Zabani Khachukayeva. If it is true, she beats the present oldest person -- Japan's Hongo Kamato.

Mrs. Khachukayeva can't hear well, but she is active and healthy. She has 24 grandchildren, 38 great-grandchildren and seven great-great-grandchildren. Some doctors think that she may be older than 124 years old. The age is written on her passport.

Local news say that she works around the house, looks after her many grandchildren, great-grandchildren and great-great-grandchildren. In fact, her oldest son died two years ago, but her youngest child is alive and has 10 children.

The present officially oldest person is Hongo Kamato. She was born in 1887 on Tokunoshima Island. She became the oldest person in March 2002.

She has had a very interesting life. She spends a lot of time sleeping. She sleeps for two days and stays awake for two days. She enjoys drinking sake and dancing. Her key to long life she says is "not to worry too much."

1 What is this passage about?

- a. Hongo Kamato b. Chechnya c. The oldest person in the world d. Children

2 What does "great-great-grandchildren" mean in Japanese?

- a. 子供 b. 孫 c. ひ孫 d. やしやご (ひ孫の子供)

3 What is her key to live long?

- a. To drink alcohol. b. To dance. c. Not to sleep long. d. Not to worry about many things.

*If you become 100 years old, what would you want to do?

< B校の使用教材 > Thomas Cruise Mapother

Tom Cruise was born on July 3rd, 1962, in New York, USA. His father, an engineer, was Thomas Cruise Mapother and his mom is Mary Lee Mapother. Tom has three sisters: Lee Anne, Marian and Cass. He was born into poor family. They often moved while his father searched for work. He found it difficult to make friends because of the moves and his dyslexia.

Now he is an international superstar with hit movies like "Top Gun" and "Mission Impossible." He was one of the highest paid actors in the world by 1990. Cruise was paid \$15 million a picture in such great hits as "Interview with the Vampire," "Mission Impossible."

He may be one of the most famous actors, but he also leads a normal life. He got married to an Australian actress Nicole Kidman in 1990 and they adopted two children. When he is not working, he spends time with his family. Acting can be hard work, so Cruise often flies his small airplane in his free time. He named it "Sweet Nic" after his wife. Tom and Nicole had a happy married life, but they got divorced in 2001.

{出典 : Tom Cruise Fan(HP), スピート・リディング(ｼﾞｽﾄ)}

1. To complete each item, choose the best word, number or phrase from among the four choices.

(1) In 1962 Tom was born in (). [1. Los Angeles 2. Australia 3. New York 4. Hollywood]

(2) Tom and Nicole () children. [1. had their own 2. adopted two 3. had no 4. had three]

(3) Tom was paid \$ (),000 a movie in "Interview with the Vampire."

[1. 15 2. 150 3. 1,500 4. 15,000]

(4) Tom has a small airplane named (). [1. Sweet Nic 2. Cruise 3. My wife 4. Top Gun]

2. できるだけ英語で答えよ。

(1) How old is Tom now?

(2) What is his mother's name?

(3) What does he like to do in his free time?

(4) When did they get married?

(5) How long had Tom and Nicole been married?

(6) Have you ever seen any movies starring Tom Cruise? (If you have,) What are the titles?

(2) B 高等学校の実践事例

学校の現状

全日制課程で専門学科が設置された学校なので専門学科の科目・単位が多く、国語・数学以外の普通科目は週2単位時間以下である。学習設備・環境に恵まれ、進路先は半数以上が就職、残りは、進学（大学・短大・専門学校等）となっている。

本実践の対象生徒は、1・2年次に英語を2単位ずつ修得し、現在OCA2単位を履修中の3年生2クラス44人（それぞれ24人・20人）である。生徒の大半は中学校での英語の成績が5段階評定で2から4で、英語に対して多少の苦手意識を持っている。

実践指導例

実施日時 平成15年10月17日（金） 第5校時

実施対象 第3学年 OCA

使用教材 独自作成教材 「トム・クルーズの生い立ち」

評価規準

- ・トム・クルーズの生い立ちについての英文を読み、その内容が理解できる。
- ・内容に関する設問の答えを、適切な英語で書くことができる。

指導手順

- ・前時の使用教材の裏面に全訳・解説等を印刷して返却。
- ・本時の使用教材を配布。
- ・生徒の理解を促すために教員が教材の英文を音読し、設問に関連する箇所を教示。
- ・10分程度で問題を解くように指示し、計時。
- ・自己採点させ、教員が口頭で解説し回収。
- ・「自分の意見を英語で書く設問」に対する生徒の意見を、教員がクラス全体に紹介。

実施結果

23人中、B（おおむね満足できる状況）が21人、C（努力を要する状況）が2人であった。

最終評価及び評価に基づく事後指導

最終評価

2クラス（44人）で各11回実践し、以下のような最終評価となった。

A	B	C
（Bが9回以上）	（Bが6～8回）	（Bが5回以下）
30人（68%）	12人（27%）	2人（5%）

事後指導

5回ごとに、C（努力を要する状況）が2回以上の生徒に個別指導を行った。前半の個別指導対象者6人に、C評価となった教材をすべて理解できるまで繰り返し学習させたところ、以後の授業では改善が見られた。

(3) C 高等学校の実践事例

学校の現状

生徒の約9割が進学を志望している。英語を重視し、補習や英語検定指導などに学校全体で力を入れている。そのため英語ができるようになりたいと思う生徒は多く、指示された内容については着実に学習する。その反面、自発的に学習できない生徒や、英語ができるようにはなりたいたが、十分な成果が得られないと感じている生徒も増えている。

実践指導例

実施日時 平成15年10月20日(月) 第6校時

実施対象 第2学年4組 英語

使用教材 独自作成教材 「制服の是非」

評価規準

- ・制服の是非に関する英文を読んで、必要な情報を得たり、概要や要点を把握したりすることができる。
- ・書き手の意向などを理解し、それについて自分の考えを英語で書くことができる。

指導手順

- ・前時の使用教材の裏面に全訳・解説などを印刷して返却。
- ・前時の評価がBだった生徒にはTYPE A、Cだった生徒にはTYPE Bの問題を配布。
- ・8分で解くように指示し、タイマーで計時。
- ・教材を回収。
- ・回収した教材は授業後に採点し、裏面に解説を印刷した後、後日生徒に返却。

実施結果

40人中、B(おおむね満足できる状況)が28人、C(努力を要する状況)が12人であった。

最終評価

このような実践を2クラス(80人)で各8回行い、以下のような最終評価となった。

A (Bが7回以上)	B (Bが3～6回)	C (Bが2回以下)
26人(32.5%)	44人(55%)	10人(12.5%)

< C 高等学校の使用教材 : T Y P E A >

I'm an 18-year-old girl. My problem is school uniforms. I believe that there is no good point about wearing them. My school uniform is quite different from my taste, and I feel depressed every time I wear it. If teachers care about us, they should give us the freedom to choose what we wear at school. School uniforms are not practical. On a cold day, pants are much warmer than a skirt. On a hot day, I'd rather wear a T-shirt. School uniforms are often dirty, because you wear the uniform to school every day without washing it; How often do you wash your uniform anyway? What do you think?

Check Your Understanding(Reading Activity)

- 1 What is she against? *against 反対した

She is against _____ .

- 2 Give three reasons she is against it.

- 3 What does the word "depressed" mean?

A 切迫した B 動揺した C 不安な D 落胆した

- 4 What does the word "practical" mean?

A 実用的な B 柔軟な C 独創的な D 練習熱心な

Communicate with the Writer(Writing Activity)

Are you for or against her idea? Why? Write your opinion in English.

あなたは彼女の考えに賛成か、反対か。理由も含め英語で答えよう。

(文法的誤りは問わない。少しなら日本語を混ぜてもよい。あなたの意見を伝えるつもりで。)

< C 高等学校の使用教材 : T Y P E B >

(本文はT Y P E Aと同じ)

Check Your Understanding(Reading Activity)

- 1 この生徒は何に反対しているのか。該当語句を抜き出さない。

- 2 それに反対している主な理由を3つ、本文中から抜き出さない。

- 3 本文中の "depressed" の意味として正しいものを選びなさい。

A 切迫した B 動揺した C 不安な D 落胆した

- 4 本文中の "practical" の意味として正しいものを選びなさい。

A 実用的な B 柔軟な C 独創的な D 練習熱心な

Communicate with the Writer(Writing Activity)

Are you for or against her idea? Why? Write your opinion in English.

あなたは彼女の考えに賛成か、反対か。理由も含め英語で答えよう。

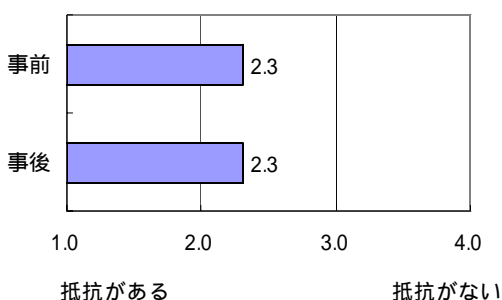
(文法的誤りは問わない。少しなら日本語を混ぜてもよい。あなたの意見を伝えるつもりで。)

5 アンケートの結果と考察

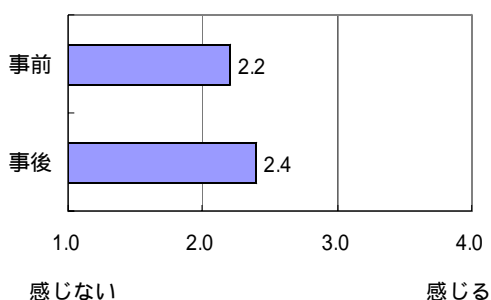
(1) アンケートの結果

アンケート調査は5校(275人)を対象に、9月の授業実践の開始前と11月の実践終了後の2回行った。質問は5問で、英文に対する意識を4段階で答えさせた。また、アンケートの最後で自由に意見を書かせた。以下は、その結果と自由意見である。

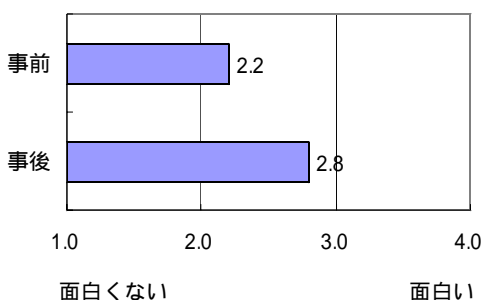
質問1 英文を読むのに抵抗がありますか。



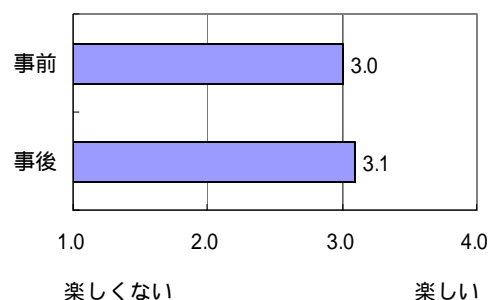
質問2 英文を読むのに楽しさを感じますか。



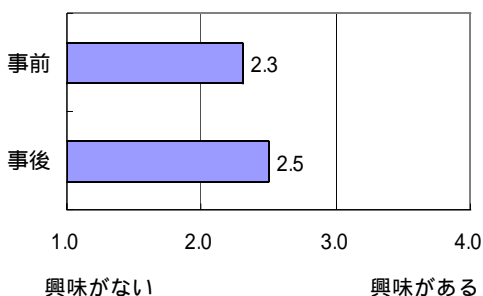
質問3 教科書(事前)・独自教材(事後)の英文は面白いですか。



質問4 書物を読むことで新たな情報や知識を得ることは楽しいですか。



質問5 読んだ英文に関して、自分の意見や感想を話したり、書いたりすることに興味がありますか。



自由意見

- ・英文を読めたときは楽しい。
- ・難しかったが面白かった。
- ・自分の語力力のなさを痛感した。
- ・英文を通して世の中を知ることができてよいと思う。
- ・教科書もよいがこのような英文もよい。

- ・前回とは違って、最近は英文を読むのが苦ではなくなってよかったです。でもそれは文が自分の知っている人物だからかな？
- ・英文はとっても面白いです。意見を書くのは慣れていなかったなので、新鮮でよかったです。
- ・前にやっていたものよりも、オリジナルのものの方が身近なものが多くて楽しく感じられます。英文に対して抵抗はあるけれど、このくらいの英文なら抵抗も少なくてすみます。
- ・最近の速読、面白くて読みやすいです。
- ・英文を読むことに少しずつ慣れることができたと思う。
- ・楽しい英文もあったが、難しいものもあったので、まだまだ勉強不足だと思った。

(2) 考察

アンケートの質問2、質問3の結果から、Aグループで作成したリーディング教材に興味・関心をもって、読むことに楽しさを感じる生徒が増えた。

質問1、質問4の結果については数値が伸び悩んだ。自由意見から分かるように、英文を読むことは楽しく、情報や知識を得ることにも興味はある。しかし、限られた時間の中では読解が難しいと感じた生徒も一部にはいたようだ。そのため、「英文を読むことに抵抗がない」「書物を読んで情報や知識を得ることは楽しい」と自信をもって回答することができなかったと考えられる。

質問5の結果から、生徒は興味のある教材ならば、それに関して自分の意見や感想を話したり、書いたりすることに興味をもつことが分かった。

6 研究の成果と課題

(1) 成果

興味を引く教材を用いることで、生徒は英文を読むことを楽しく感じた。

興味を引く教材を用いることで、生徒は英文を読むことへの動機が高まり、他の技能(ライティング・スピーキング・リスニング)を用いて、コミュニケーション活動を意欲的に行った。

評価規準を明確にし、1観点を基本に多くとも2観点に基づき評価することで、授業後の短時間でクラス全員を評価することができた。

生徒の理解度に応じて、同じ英文教材でも脚注や視覚的のヒントを与えるなど工夫し、難易度を変えて提示することで、個に応じた指導を行うことができた。

5回実施したうちC(努力を要する状況)が2回以上の生徒には、次回以降B(おおむね満足できる状況)になるように個別指導を行い、指導と評価の一体化を図った。その結果、多くの生徒の学習状況に改善が見られた。

(2) 課題

各授業の後に短時間で評価をし、それらを集約して単元の最終評価をすることができた。しかし、その評価を学期末の最終的な評定に総括する具体的方法を考えていく必要がある。

生徒の理解度に応じて、難易度が異なる2教材を作成し、使用した。しかし、数人の生徒は、難易度が低い教材でもC(努力を要する状況)を続けてしまった。そのような生徒へどのような支援を行えばよいのかなど、個に応じた指導、また指導と評価の一体化を更に研究実践していく必要がある。

7 参考文献

- BBC NEWS. (2003.7.30). Chechnya claims 'Oldest living person.' (<http://news.bbc.co.uk/2/hi/europe/3110525.stm>). 2003.8.1取得
- Doff, A. Teach English. Cambridge: CAMBRIDGE UNIVERSITY PRESS, 1998.
- The Japan Times. (2003.6.20). Dotombori cleanup set for Tigers fans' victory plunge. (<http://www.japantimes.co.jp/cgi-bin/getarticle.pl5?nn20030620b8.htm>). 2003.7.28取得
- The Japan Times. (2001.4.25). Lost and found in a dream. (<http://www.japantimes.co.jp/cgi-bin/getarticle.pl5?ff20010725a3.htm>). 2003.7.30取得
- Canfield, J. and Mark Victor Hansen 『Chicken Soup for the Soul . チキンスープをどうぞ 心あたたまる17のアメリカ小話集』 金星堂、平成14年。
- Cantor, P. 『For Parents Only .Dr.キャンターの悩みごと相談室』 研究社出版、平成4年。
- 国立教育政策研究所 『高等学校における評価規準、評価方法等の研究開発について(中間整理)』 平成15年9月。
- 教育庁指導部義務教育心身障害教育指導課 『評価を生かす 授業を変える 子どもが伸びる ~ 指導と評価の一体化を目指して~』 平成15年6月。
- 松沢伸二 『英語教師のための新しい評価法』(英語教育21世紀叢書) 大修館書店、平成14年。
- 三浦孝・弘山貞夫・中嶋洋一 『だから英語は教育なんだ 心を育てる英語授業のアプローチ』 研究社出版、平成14年。
- 文部省 『高等学校学習指導要領』 平成11年3月。
- 高梨庸雄・高橋正夫 『英語リーディング指導の基礎』 研究社出版、昭和63年。
- 東京都教育委員会 『平成14年度「東京の教育21」研究開発委員会指導資料集外国語(英語)部会 観点別学習状況の評価に基づく具体的な指導の在り方』 平成15年3月。
- 津田塾大学言語文化研究所読解研究グループ 『学習者中心の英語読解指導』 大修館書店、平成4年。

Bグループ 研究主題

コミュニケーション活動における生徒の興味・関心を喚起する音声指導と評価

1 主題設定の理由と研究のねらい

(1) 主題設定の理由

授業では、英語学習に対して意欲的でない生徒もいる。また、英語の基礎的・基本的な学力が定着していないなどの理由で、英語学習に消極的な生徒も少なくない。

そのような生徒たちに英語を指導するためには、様々な工夫が必要である。従来は有効と考えられた指導法を新しい視点から見直すことや、これまでにはない指導方法等を試みることも大切である。

このような理由から、Bグループは、生徒の興味・関心を喚起する指導方法の工夫を研究のねらいとすることにした。

一般に、興味・関心というと、音声・視覚教材を取り上げることが多い。しかし、活動が単発的でいわゆる投げ込み教材としての扱いであり、指導計画に位置づけられていないため、その場限りの楽しさだけで終わっている面もある。そこで、体系的に生徒の興味・関心を喚起する音声指導を行い、コミュニケーション活動を計画的に展開することで、生徒に達成感や成就感を味わわせることを目標とし、研究を進めることにした。

併せて、目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）に基づく4観点による評価を、毎日の授業の中で適切に実行する方法について研究した。

(2) 研究のねらい

生徒の学習意欲を喚起する音声指導の方法を検討する。

その指導方法を実践、分析し、日々の授業に活用できる具体的な実践例を提示する。

1単位時間当たりの評価規準を明確にし、4観点に基づき評価を行う。

2 研究の仮説と研究の方法

(1) 研究の仮説

音声によるコミュニケーション活動において、どのような活動に生徒が興味・関心をもつのかを検討した。活動が楽しいと感じるためには、生徒が主体的に活動に参加することが必要である。また、それまでに得た自分の英語の知識を活用し、自己の考えなどを表現した時に、それが相手に通じたという実感をもつことが大切である。さらに、コミュニケーション活動を行った結果、新しい情報が得られたり、あるいは具体的に何かが成し遂げられたという達成感を得られることが望ましいと考える。

「ある目標を達成するために学習者が言語を使用する活動」を Skehan は「タスク活動」と定義している。その活動は意味・伝達内容が中心となり、学習者は意味のあるやりとりを行う。その場合、タスクは現実生活の言語使用の場面と類似したものとなる。また、Skehan はタスクは学習者の言語能力を伸長するものとしている。

Tasks, ..., are activities which have meaning as their primary focus. Success in the task is evaluated in terms of achievement of an outcome, and tasks generally bear some resemblance to real-life language use. So task-based instruction takes a fairly strong view of communicative language teaching. It is the task which drives the learner's system forward by engaging acquisitional processes. (Skehan 1996)

そこで、タスク活動を行うことで、生徒は音声面でのコミュニケーション活動に興味・関心をもつのではないかと考え、以下の仮説を設定した。

《仮説》

コミュニケーション活動をタスク活動 (task-based activity) にすると、生徒の興味・関心を喚起することができる。

(2) 研究の方法

仮説に基づき、文献研究及び先行研究の確認を行い、タスク活動の概念とその内容について確認した。次に各校の生徒の状況を踏まえながら、年間の指導計画の中で適切に行える具体的なタスク活動を検討し、教材作成の準備を進めた。そして、指導内容と評価方法についての検討を行い、タスク活動を取り入れた検証授業を繰り返した。評価については、評価規準を設定し、授業のねらいを明確にし、観点別に学習状況の評価を行った。また、タスク活動を行った授業と行わない授業の後で生徒にアンケート調査を行い、音声面のコミュニケーション活動に対する生徒の興味や関心の状況を把握した。最後に、検証授業及びアンケートの分析・考察を行った。

3 実践事例

(1) D高等学校の実践事例

実施日時 平成15年9月29日(月) 第6校時

実施対象 第2学年A組 英語

使用教材 UNICORN ENGLISH COURSE 文英堂 Lesson 5 Sleeping with Lions

配当時数	内容	言語材料及び言語活動
1	Before You Read	教科書の WARM UP を基に意見交換をする
1	PART 1	英語を聞いて概要をとらえる
1	PART 2	英語を読んで内容を理解する
1	PART 3	S+V(be)+C(疑問詞節)
1	PART 4	独立分詞構文
1	PART 5	S+V+C(分詞)
1	After You Read	英語を聞いて内容を書き取る
1	For Study	語句や英語表現のドリル学習
1(本時)	For Practice / タスク活動	自分の考えを書く / 絵について話す

単元の評価規準

S+V(be)+C(疑問詞節) / S+V+C(分詞) / 独立分詞構文について、それらを用いて自分の考えを書いたり、意見を述べたりできる。

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	伝えたい内容に応じて、語句や表現を選択し、適切に英語で話したり、書いたりして表現する。	英語を聞いたり、読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとするを正しく理解する。	幅広い話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解する。

本時のタスク活動

ア 評価規準

・S+V(be)+C(疑問詞節)やS+V+C(分詞)を用いて、伝えたいことを英語で表現できる。

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
	本単元で学んだ表現など、適切な語句や表現を用いて、絵について描写し、相手に伝えることができる。		

・「話すこと」の表現の能力についてB（おおむね満足できる状況）かC（努力を要する状況）かで評価する。

イ 評価方法

指導手順(オ)の、生徒がグループごとに活動をしている際に、10グループ(40人)のうち2グループ(8人)の生徒について、名票を用いて評価する。評価規準はあらかじめ生徒に伝えておくとともに、評価内容は授業終了後できるだけ早い時点で生徒に示し、今後の学習に生かすよう指導する。

ウ 指導手順(全20分)

- (ア) 4コマ漫画を用意。1枚ずつに分けて、A～Dの記号を付ける。(図1)
- (イ) 生徒を4人ずつのグループに分ける。
- (ウ) 言語活動に必要なと思われる語句や表現についてはあらかじめ提示する。
- (エ) 各グループにA～Dのカードを配布する。互いに見えないようにする。
- (オ) 一人ずつ、自分が持っているカードの絵について、グループ内の他のメンバーに英語で伝える。

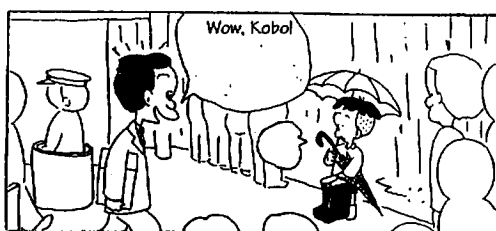
- (カ) 互いの描写を基に話し合い、4枚のカードを話の筋が通るように並べる。
- (キ) 並べ終わった時点で、グループの代表者が黒板にカードの順番を書く。
- (ク) 話の流れを確認する。いくつかのグループに発表させる。

エ 指導と評価の留意点

- ・指導に当たっては、生徒の習熟の程度に応じて教材となる絵や話を選択し、また、事前に提示する語句や表現を定めておく。
- ・評価に際しては、生徒の活動の妨げとならないよう配慮すると同時に、どの生徒を評価しているのかが分からないように留意する。

(図1) A→D→C→Bの順番になる

A



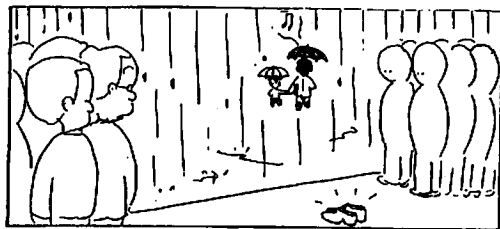
D



C



B



出典：植田まさし 著（ジュールス・ヤング、ドミニク・ヤング訳）

『対訳 よりぬきコボちゃん①』 講談社インターナショナル株式会社、平成12年。

(2) E 高等学校の実践事例

実施日時 平成15年11月7日(金) 第6校時

実施対象 第1学年C組(40人) OC

使用教材 Harvest English Grammar 桐原書店 Section 19 分詞(1)

配当時数	内容	言語材料及び言語活動
1	Section19(1)	英語を聞き、現在分詞の形容詞的用法を理解する。
1(本時)	タスク活動	英語を話す(分詞を使った絵の描写)。
1	Section19(2)	英語を聞き、話し、概要をとらえる(現在分詞、過去分詞)。

単元の評価規準

日常生活の身近な話題について、英語を聞いたり、話したりして、情報や考えなどを理解し、伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行いコミュニケーションを図ろうとする。	英語を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝えたいことを話すことができる。	英語を聞いて、話し手の意向や具体的な内容など相手が伝えようとすることを理解する。	英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解する。

本時のタスク活動

ア 評価規準

現在分詞を用いて場面や目的に応じて、適切に相手に情報を伝えることができる。

「話すこと」

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
	伝えたい情報などを文法に従い、正確に話すことができる。		

イ 評価方法

現在分詞を用いて場面や目的に応じて、適切に相手に情報を伝えることができるかを、指導手順の(オ)の段階で教師が机間指導し、生徒の達成度を確認する。

20ペア(40人)中5ペア(10人)を評価する。

ウ 指導手順

所要時間 50分

(ア) あいさつ (Greeting and small talk for warm up)

3分

(イ) 歌の歌詞の内容理解

本時で学習する言語材料(分詞)を使った歌詞。stolen bike, boring class 等。 12分

(ウ) 前時の復習小テスト

5分

(エ) グループによるカードゲーム(タスク活動)

10分

グループごとに絵を17枚並べ、教員が分詞を用いた英語を話す。生徒はそれを聞いて絵を取り、たくさんカードを取った者が勝ちとなる。

(オ) ペア活動(タスク活動)

20分

生徒はペアになり、それぞれが違う箇所のある絵を1分間熟視する。その後、絵を見ずにそれぞれがその絵の描写をする。違う箇所5つを早く探せたペアが勝ちとなる。言語材料は現在分詞を用いる。

エ 指導と評価の留意点

評価の記入は座席表を用いた。評価対象が生徒に分からず、生徒の言語活動の妨げにならないよう配慮した。



(生徒作品)

(3) F 高等学校の実践事例

実施日時 平成15年11月17日(月) 第6校時

実施対象 第2学年6組(19人) OCA

使用教材 ENGLISH STREET 第一学習社 Lesson 9 Shopping for Clothes

配当時数	内 容	言語活動
1	Listening Points・Speaking Points	重要表現の復唱やドリル練習及び模範の対話例を用いてのペアワーク学習
1	Performance A	
1	Performance B	
1	At a Fast Food Restaurant (独自教材)	模範の対話例を基にしたペアワーク学習
1 (本時)	At a Fast Food Restaurant (独自教材)	前回学習した内容を基にした実演販売の練習(タスク活動)

単元の評価規準

商店で洋服を買う、ファストフード店で商品を注文する等の基本的な表現を身に付ける。

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、英語を聞いたり話したりして積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	日常生活の身近な話題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、発表したりして表現する。	日常生活の身近な話題について、比較的平易な英語を聞いて、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解する。	日常生活の身近な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともに、その背景にある文化などを理解する。

本時のタスク活動

本時は、この単元の内容を基にした発展的学習として、独自の教材を用い、ファストフード店での対話練習を行う。

ア 評価規準

ファストフード店における対話で、客・店員という役割に応じて、適切な表現を用いて応答することができる。

[話すこと]

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
	客は、自分が買いたい物を店員に正確に伝えることができる。店員は、客に飲み物を勧めることができる。		

イ 評価方法

「話すこと」の表現の能力について、前記の評価規準に基づいて、客を演じた生徒に関しては、タスクどおりに商品を注文できた場合にはB（おおむね満足できる状況）、できなかった場合にはC（努力を要する状況）とする。また店員を演じた生徒についても同様に、飲物を勧めることができたならB、できなかった場合にはCとする。

ウ 指導手順

- (ア) 基本的な表現（前回の授業で既に学習している表現）を、生徒全員に復唱させる。
- (イ) 生徒をペアにし、前回の教材を参考にして対話の練習を行わせる。
- (ロ) 十分に練習をしたペアから教員のところへ来させて、教卓を販売カウンタに見立て、商品やお金の受渡しを実際に行わせる。
- (リ) 客の役割を演ずる生徒に対しては、あらかじめ用意したタスク（どの商品を買うか）を記した紙を渡し、そのタスクを完了するように指示する。
- (ル) 店員の役割を演ずる生徒に対しては、客の役割を演ずる生徒に渡したタスクの、商品の合計金額をあらかじめ指示しておく。
- (レ) 同じ要領で4ペアにタスク活動を行わせる。

エ 指導と評価の留意点

実演を行わせるときは、実演を行う生徒が必要以上に緊張しないように心がけた。また評価を行う際には、実演している生徒に対して評価を行っていることが分からないよう配慮した。そのために、客・店員どちらの役割を演じたかを書き込むためのカードを用意し、同時に評価も記入できるようにした。生徒の実演終了後にそのカードにBまたはCを記入し、授業終了後にその評価を記録簿に転記した。

メニュー

<Menu>

~ BURGERS ~	
Hamburger	... \$ 2.00
Cheese Burger	... \$ 2.50
Teriyaki Burger	... \$ 3.00
Fish Burger	... \$ 3.00
~ SIDE ORDERS ~	
French Fries Small	... \$ 1.00
Medium	... \$ 1.50
Large	... \$ 2.00
~ DRINKS ~	
Cola Small	... \$ 1.00
Orange Juice Medium	... \$ 1.50
Ginger Ale Large	... \$ 2.00
~ DESSERT ~	
Apple Pie	... \$ 1.50

Please Come Again!!

米ドル（切取り半分に折る）

\$ 1	ONE DOLLAR
\$ 5	FIVE DOLLARS
\$ 10	TEN DOLLARS
\$ 20	TWENTY DOLLARS

¢ 1	ONE CENT
¢ 5	FIVE CENTS
¢ 10	TEN CENTS
¢ 25	QUARTER

評価票
(右の空欄にB又はCを記入)

2 -	NAME
Clerk	
Customer	

タスクの例（客に提示）

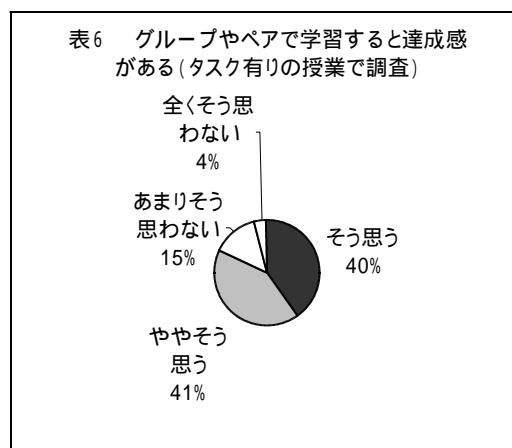
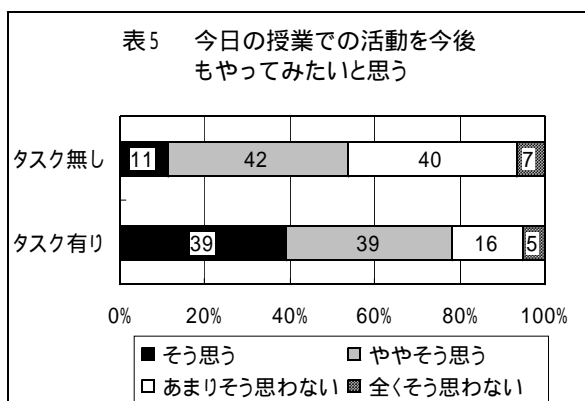
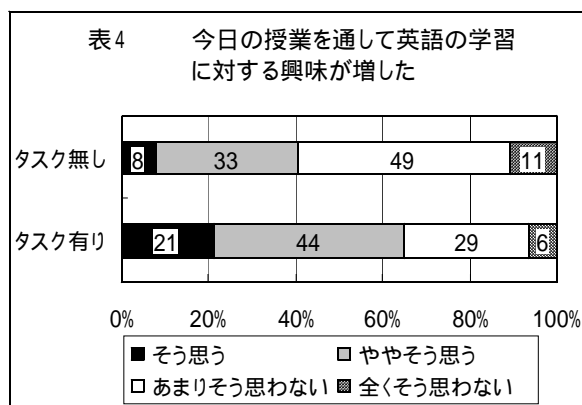
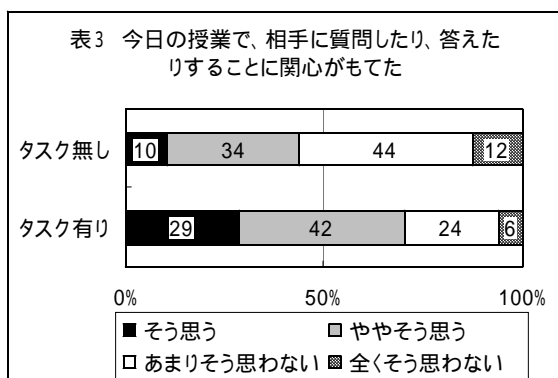
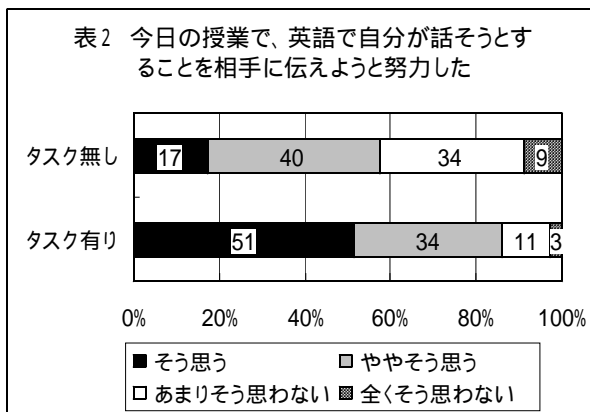
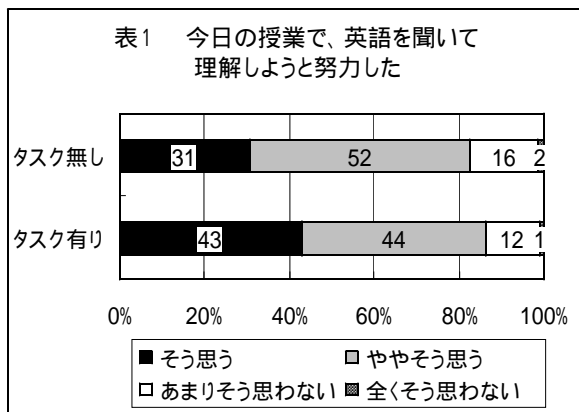
・ハンバーガー	1
・ポテト L	1
・オレンジ M	1

・フィッシュ	1
・ポテト S	1
・アップルパイ	1
・コーラ S	1

4 アンケートの結果と考察

(1) アンケートの結果

タスク活動を行わない授業と行った授業の後にそれぞれアンケート調査を実施し、比較検討した。調査数は195人である。質問項目と結果を以下に示す。



(2) 考察

表1の「英語を聞いて理解しようと努力した」の質問項目に「そう思う」と答えた生徒は、タスク無しの授業では31%、タスク有りの授業では43%であり、12%増えている。表2の「英語で自分が話そうとすることを伝えようと努力した」の項目に「そう思う」と答えた生徒は、タスク無しの授業では17%であったが、タスク有りの授業では51%であり、3倍に増えた。表3の「相手に質問したり、答えたりすることに関心が持てた」の項目に「そう思う」、「ややそう思う」と答えた生徒は、タスク無しの授業では44%であり、タスク有りの授業では71%であった。これらのことから、コミュニケーション活動をタスク活動として設定することで、生徒は「聞くこと」及び「話すこと」に対して意欲的になることが明らかになった。

表4の「今日の授業を通して英語の学習に対する興味が増した」の項目に、「そう思う」あるいは「ややそう思う」と答えている生徒は、タスク無しの授業では41%であり、タスク有りの授業では65%であった。このことは、タスク活動を通して英語学習そのものへの興味が高まっていることを示している。

表5の「今日の授業での活動を今後もやってみたいと思う」については、「ややそう思う」を含めると約80%の生徒が、タスク活動を今後もやってみたいと思っている。以下は、自由記述したその理由の一部である。

タスク活動を今後もやってみたいと思う理由（自由記述）

- ・英語で自分の考えを説明するのは難しかったけど、すごく面白かった。(D校)
- ・自分の英会話能力が試されて、文法の力が足りないことに気がつかされた。(D校)
- ・英語の意味を理解しようとするし、みんなに伝えるために英語をたくさん活用しようとする。(D校)
- ・ゲームしているとき、もっと分かるように努力しようと思った。(E校)
- ・英語は人と話すことで上達するんだなと思った。(E校)
- ・集中できたし、楽しかった。(F校)
- ・リアルだったので、面白かった。(F校)

生徒は、タスクの目標を達成しようと自然と活動に集中し、積極的にコミュニケーション活動を行っていたことが分かる。そして、英語で何とかコミュニケーションを図ろうと努力する過程に、楽しさや面白さを見いだしていることが分かる。また、実際に英語を使うことで、自らの英語力不足に気づき、次の学習への励みとしている様子が表れている。

話すことを中心としたタスク活動では、グループやペアで活動を行うことが多くなる。表6「グループやペアで学習すると達成感があると感じる」では約80%の生徒が「そう思う」あるいは「ややそう思う」と答え、グループやペアでの活動に対して肯定的なことが分かる。検証授業では、生徒はグループやペアの活動で、お互いに足りない部分を補いながら協力し合い、タスクの目標を達成させていた。初めは意欲の低い生徒も、全体が積極的に参加する雰囲気の中でグループやペアで活動することで、意欲的な姿勢が見られた。

5 研究の成果と課題

(1) 成果

タスク活動で言語の使用場面を設定すると、生徒は自然と情報や考えなどの受け手や送り手になった。また、タスク活動は、単なるドリル学習の反復とは異なり、実際の言語の使用場面に近いので、生徒は話したり、聞いたりする活動に興味や関心をもった。

タスク活動では、文法的に正しい文を話すことより、相手に意味や内容を伝えることが大切となる。生徒はタスクの目標を達成させようと、相手に内容を伝えることに集中し、文法的な誤りに過度にとらわれることなく、積極的に話していた。

タスク活動は、ペアワークやグループ活動が中心なので、お互いに情報や考えを伝え合うために、協力して課題を解決しようとする姿勢が見られた。

タスク活動を日々の授業に取り入れていくことが、生徒の英語学習そのものに対する関心を高めることにつながる。

特定の1観点のみをB（おおむね満足できる状況）かどうかで評価する方法は、毎日の授業で実行可能であり、この方法を積み重ねていくことで、客観性の高い評価ができる。

評価規準を設定することで、指導のねらいが明確となった。また、生徒へその内容を伝えることで、生徒も達成すべき目標を意識し、その結果として意欲的に活動した。

(2) 課題

40人学級で、1回に評価することができる人数は8人程度であった。全員を評価するには5単位時間が必要である。しかし、毎時間のタスクの難易度は異なってくる。したがって、評価の妥当性や信頼性に留意しつつ絶対評価の精度を高めていくことが課題である。

検証授業では、「話すこと」の「表現の能力」をB（おおむね満足できる状況）かどうかで評価した。学期末に評定をつける際、それらの評価をどのように最終的な評定に総括するかを今後検討していく必要がある。

評価の結果を基に、生徒一人一人が次の学習の励みになるような指導へとつなげていくことが大切である。しかし、今回の研究ではそこまで至らなかった。目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）に基づく、その後の個に応じた適切な指導が今後の課題である。

6 参考文献

Nunan, D. Designing tasks for the communicative classroom. Cambridge: Cambridge University Press. 1989.

Willis, J. A Framework for Task-based Learning. London: Longman. 1996.

松沢伸二 『英語教師のための新しい評価法』（英語教育21世紀叢書）大修館書店、平成14年。

文部省 『高等学校学習指導要領』平成11年3月。

高島英幸 『実践的コミュニケーション能力のための英語のタスク活動と文法指導』大修館書店、平成14年。

平成15年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録
平成15年度 第31号

平成16年1月21日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14
電話番号 03-5434-1976

印刷会社名 勝田印刷株式会社